

コロナワクチンーこんなに危ない

ワクチン反対市民の会

昨年の「コロナ・パンデミック」以来、私たちは、一斉休校、休業要請、航空機の減便、外出や旅行の自粛、マスク、社会的距離など、非日常的な政策を押し付けられています。

それでも生活を元に戻すには足りず、最後はワクチンが必要だと言われてきました。今、その「コロナワクチン」が完成し、日本でも2月から接種が始まります。TVや新聞はさかんにその有効性を宣伝し、接種を勧めています。HPVワクチンの時と同じように。

でも私たちはこのワクチンについて何も知らされていません。ワクチンは医薬品です。接種するかどうか決める前に、正確な情報が必要です。メディアも行政も事実を伝えない以上、市民が調べるしかありません。そこで、当会が入手した資料を元にポイントをまとめてみました。すべての情報は裏付けがあります。この情報が役に立ちますように。

* * *

1. 「コロナワクチン」は実験ワクチン

英米は昨年12月、ファイザー/ビオンテック社とモデルナ社のワクチンに緊急使用許可EUAを出しました、日本の菅政権もこれを「承認」後、2月末には接種を始めるとしています。でも1月半ば現在、コロナワクチンを正式に承認した国はありません。CDC（米の厚労省）は、「このワクチンは調査用（＝実験用）だ」と明記しています。なぜなら、コロナワクチンは既存のものとはコンセプトも製法も全く異なる新しい実験ワクチンなので、接種後、何か起きるか「調査する」必要があるからです。つまり、現段階で接種を希望する人々は自ら進んでモルモットになつたとみなされ、事が起きても保障されません。

2. 動物実験さえされていないコロナワクチン

このワクチンの「ヒト」の治験は終わっていません。それどころか、通常必須の動物実験さえ行っていません。実は、これまでも、RSV、SARS、MERS、デング熱などに対し、さまざまなコロナワクチン開発が試みられてきました。動物実験もくりかえされました。しかしワクチンを投与した実験動物や人は、実際のウイルスに感染させると、ひどい症状を起こしたり、死亡したりするなどことごとく失敗。そしてこれらの実験を通じ、コロナワクチンが「パラドキシカル抗体（期待された効果と正反対の効果が出る）」や「抗体依存性感染増強,ADE」を起こすことがわかり、開発は中止されました。事情は今も同じ。危険が証明されているワクチンが、今度は動物実験をパスし、人用に使われているのです。

3. コロナワクチンー深刻な副作用

すでに両者の製品とも、副作用が報告されています。真っ先に被害を受けたのは、ワクチンを「優先接種」された医療関係者で、米CDCが認定しただけでも5日間で3150件に上っています（12月末4000件超）。そのレベルは、「日常生活ができない」「仕事に行けない」「医師などの治療が必要」という重篤なものです。また、重いアレルギー反応（アナフィラキシー症状）を起こし、ICUなどで治療も受けたケースも何件かあります。

「命を救う」というワクチンの宣伝を妄信すると、大きな代償を払わなければならぬこともあります。ワクチン接種により、リューマチ、自閉症、糖尿病、自己免疫疾患など生涯にわたる疾病を起こすことがあるからです。

4.メーカーは死亡とワクチンの関係を否定

米FDAはファイザーのワクチン治験中に6名の死亡があったと発表しています。しかしメーカーはワクチンとの関係を認めず、詳細不明。緊急使用承認後は、各国から、ワクチン接種後の死亡事例（心臓麻痺など）が報告されていますが、メーカーはこれも認めず。米マイアミでは、ワクチン支持派の医師が接種3日後に特発性血小板減少紫斑症を起こし、手当もむなしく、2週間後に死亡した事件がありました。これはワクチンの副作用としてよく知られた病気ですが、メーカーはこの件についても「考えられない」と全否定。

5.メディアとネットの「ワクチン検閲」

しかし、一般市民の耳にはこれらの死亡や副作用のことはまず入りません。大手メディアはコロナの危険性とワクチンの必要性を目いっぱい煽るだけで、ワクチンに関する負の情報はすぐ抑え込みにかかるからです。それに使われる「ファクトチェック」とは、事実のチェックではなく、医薬産業界にマイナスの情報をとにかく「フェイク」認定するためのツール。ワクチンを疑問視するネット上の意見や動画は、片っ端から削除されています。グーグル検索にひっかからなくなされたサイトもあり、この件に関する情報統制は深刻です。それほど、コロナ及びコロナワクチンの「事実」を市民に隠しておきたいのでしょう。

6.「ワープスピード」が狙う、新ワクチン全人類接種作戦

コロナワクチン開発は、中国がコロナのDNAシークエンスを発表すると同時に始まり、米の「光速作戦」の元、多くの手続きを省略して緊急使用が認められました。その過程で「コロナの有効な治療法」は完全否定され、mRNAワクチンだけが有効な治療法として残り、接種者の追跡・監視システム（ワクチンID+5G）とセットで導入が進められています。…初めから、「コロナ」は、WHOやSEPI、COVAXなど国際組織を背景に、全人類強制ワクチン計画として稼働したのです。陰謀論？いえ、ファイザーの元副社長でさえ「コロナワクチンは不妊をもたらしかねない」と接種の一時中止を求めていました。そして何より、私たちは、少し前までは考えられなかった異常な日常に置かれているのです。

7.市民の反乱—ワクチン拒否者が急増

でも、市民は本能的に行政や医薬産業界のウソを感じ取っています。昨年6~8月にかけてドイツでは数百万規模の「コロナ抵抗運動」が起きました。アメリカでもここ数か月ワクチン忌避派（ワクチン・ヘジタンシー）が急増し、病院の医師や看護婦らが組織的にワクチンを拒否したところも出てきています。彼らはみな「ワープスピードはおかしい」「ウラに何かある」ことに気づき始めています。各国で、政治家やタレント、セレブを使った「接種ショウ」が行われているのは、市民のワクチン離れを食い止めるためです。

8.強制接種を許すなーあなたにできること、やるべきこと

日本では予防接種はすべて「任意」です。でも、親の無知とお上への幻想などのせいでも、みなこれを強制と思い込み、子どものワクチン接種率はアメリカと同じくらい高いのです。このままではコロナワクチンの接種率もかなり高くなり、ワクチンを拒否しにくい空気が生まれることでしょう。それを避けるために、あなたがまずやるべきは、勉強すること、ワクチンについてはもちろん、自分の権利について知って下さい。あなたの身体はあなたものです。同意なく、第三者があなたの身体に害（ワクチンなど介入医療も障害）を加えることはできません。子どもに関しても、あなたは親権者として、唯一、決断を下す権利があります。少なくともワクチンに関する同調圧力を受け入れたら、それは強制接種を許すことになります。

（このチラシはジャーナリスト、山本節子が作成しました。質問やご意見は <http://wonderful-ww.jugem.jp/> あるいは <https://ja-jp.facebook.com/NoVaccineatKanagawa> まで）